

## 令和5年度東亜大学自己点検・評価報告書に関する外部評価

東亜大学は、現在、医療学部医療工学科、医療学部健康栄養学科、人間科学部心理・臨床子ども学科、人間科学部国際交流学科、人間科学部スポーツ健康学科、芸術学部アート・デザイン学科、芸術学部トータルビューティ学科という3学部7学科で構成されている。また、大学院総合学術研究科を併設し、通学制（博士前期課程・博士後期課程）・通信制（修士課程）において国内外から多くの学生が学んでいる。

建学の理念として「国際的な場で学際的な研究・教育を実施し、他人のために汗を流し、ひとつの技術を身につけた人材の育成を目的とする総合大学を目指す」を掲げている。また、教育活動の目的として「教育基本法に則り学校教育法の定めるところに従って、未来社会の要請に応え得る教育の環境を常に大学内に求め、人間教育並びに高度の専門職業技術教育とその研究とを実施し、もって福祉国家の創造に積極的に参加し、更に世界観に立脚して多民族の繁栄にも寄与し得る、独創的な頭脳・奉仕の精神・健全な身体を兼ね備えた人材の養成をすることを目的とする」を大学学則において謳っている。そして、これを実現すべく、長期ビジョン、中期目標、中期計画を掲げ、全学的な取り組みを行っている。

本報告書は、上記の建学の理念、目的及び事業計画における中・長期の目標・計画に照らし、令和5年度の東亜大学自己点検・評価報告書について外部評価を行うものである。

東亜大学の3学部7学科（医療学部＜医療工学科、健康栄養学科＞、人間科学部＜心理臨床・子ども学科、国際交流学科、スポーツ健康学科＞、芸術学部＜アート・デザイン学科、トータルビューティ学科＞）は、令和5年度も、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づき、それぞれの学科の特色を活かし、その都度適正かつ学習効果の高いカリキュラムを工夫しつつ、上記に理想として掲げられた人材育成の実現に向けて積極的に取り組んでいる。

教学に関しては、上記教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーを策定し、広くこれを周知している。「他人のために汗を流し、一つの技術を身につける」という東亜大学の教育理念は、ディプロマ・ポリシーの「1. 知識・理解」の「幅広い教養」「専門職業人として必要な知識・理解」、「2. 技術」の「専門職業人として必要な技能」、「3. 態度・志向性」の「社会への奉仕の精神、人を思いやる心」といった文言に反映されており、教職員が一

丸となってその実現に尽力している。二つ目の教育理念である「地域に生き、グローバルに考える」という理念は、「3. 態度・志向性」の「グローバルな視点から物事を把握しようとする態度」において示され、とりわけ国際交流事業などの場面において実現されている。この全学ディプロマ・ポリシーに基づいて、各学科及びコースのディプロマ・ポリシーが策定されている。それらは、すべての学科において「知識・理解」「技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と想像的思考力」の4領域に区分しつつ設定されており、それぞれの学科及びコースの専門科目を通して上記の教育理念が達成されるよう配慮されている。

大学院総合学術研究科には、医療科学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻、臨床心理学専攻の4つの専攻があり、通信制には法学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻の3つの専攻がある。そこでは、中期目標として①大学院の教育の体系化、②人材育成、③生涯学習、④教育改革、⑤実学教育、⑥学生サポートの6つを掲げ、シラバス公開、教育内容の見直しをはかる一方、学生個々の学術的関心や専門性に応じた教育を実現し、生涯学習におけるキャリアアップの機会を提供し、高度職業人を育成することにも力を入れている。

大学院研究科においても、それぞれの領域毎にディプロマ・ポリシーを策定しており、各専攻分野固有の学識と技能を一層深める一方、さらに隣接・関連する分野への広がりにおいても修得し、それぞれの領域において高度専門職業人として貢献できる人材を育成すべく、しかるべき知識や技能を身につけた修了者に学位を授与することが定められている。本ディプロマ・ポリシーは、大学院の目的に掲げられた「理論と実学の両面にわたって学術研究の精深を究め」、「奉仕の精神と健全な身体をそなえ、人びとの幸せと学術の進展に寄与しうる人材を育成する」という趣旨にも通じており、学生には学生便覧等を通して広く周知されている。

大学運営については、役員や教職員が参画する各種会議での審議・承認を経て進められており、役員、教職員の支持と理解が得られている。また、その内容については、ホームページや学生便覧を通じて学内外にも周知されるほか、辞令交付式などの式典の場において、とりわけ理事長・学長の訓示の中でも折に触れ言及されるなど、認識と理解の深化に努めている。

この中で、学生の学修支援や授業支援の方針に関しては、各学科から選出された教員により構成されている教学部委員会において策定されている。東亜大学は、全学年担任制を採用しており、退学、休学、留年防止への支援を担当教員が中心となって行っている。その上でさらに、保護者とも密に連絡を取り合うなど、極めて肌理の細かい支援を行なって

いる。

就職支援については、同様に各学科から選出された教員で構成されている就職部委員会がこれにあたっている。それに加え、キャリア科目を全学部全学科の共通教育科目として導入し、学科ごとの専門性を生かした実習や就業体験を用意するなど、多層的な支援体制を整備し成果を上げている。

学生の意見・要望については、担任による個人面談やオフィスアワー、東亜大学学生自治組織（TSC）の活動、保護者懇談会等の機会を通じて把握に努め、学生部委員会や関係委員会で協議の上、対応している。複数の学科では、柱となる国家試験対策や各種資格の取得に向けての支援に関しても学科が積極的に取り組んでおり、上記のキャリアサポートとリンクさせながら学生の満足度向上に努力している。ただ、中には国家試験合格率が低い資格もあるため、教職員が一丸となつてのさらなる試験対策および支援の充実が求められるところである。

東亜大学は、その名にふさわしく、現在、アジアを中心に海外からの留学生を積極的に受け入れてきている。実際、令和 5 年には、学部生や大学院生に、別科学生や研究生まで含めると、9 ヶ国から実に 400 名を越える留学生が在籍している。これは全在籍生の 30% を越えるウェイトとなる。こうした留学生たちの就学面や生活面、さらには就職活動の面でのサポートには、国際交流センターを中心に、学科、さらにはキャリアセンターがその都度密接な連携を取りつつ、あたっている。

東亜大学では、その都度の社会の教育需要を見据え、これまでもその都度必要な改革を行ってきた。令和 5 年度の自己点検・評価報告書の記述を見ても、学生の立場に寄り添いつつ、効果的な教育改革を実施してきたことが十分に伺える。今後も引き続き、優れた人材育成に努め、建学の理念に基づき「国際的な場で学際的な研究・教育を実施し、他人のために汗を流し、ひとつの技術を身につけた人材の育成」ができる総合大学として、地域社会に貢献できるような教育機関であることが期待される。そして、地方私立大学の整理・統合や公立化といった現行の潮流に屈することなく、地方において独自の信念において高度な教育機会を提供する学府としての矜持と自覚に立ち、地域社会に根づき、開かれた、文字通り地域社会のコミュニケーションの場として、その可能性をフルに活かした運営を続けていくことが望まれる。

#### <内部質保証>

東亜大学では、2009 年に「自己点検・評価委員会」が設置され、以降、その都度実施さ

れた自己点検・評価の結果が公表されている。「自己点検・評価委員会」は、(1) 教育活動、(2) 研究活動、(3) 組織及び運営、(4) 施設及び設備、(5) 自己点検・評価結果の公表、(6) その他について自己点検・評価の審議を行うとされる。「自己点検・評価委員会」の下には、自己点検・評価報告書の企画、作成等の実務を行う「自己点検・評価実施委員会」が組織されており、自己点検・評価の実施方法の提案、報告書の取り纏め等を行っている。建学の精神のもと、大学・大学院は、使命・目的及び教育目的を踏まえた三つのポリシーに基づく教育研究体制を確立し、社会情勢の変化に対応しながら組織改革を行い、学長のもとで円滑な意思決定ができる体制を整え、中期計画をもとに大学運営を行ってきた。

各部局は毎年、前年度に行われた点検を踏まえ、新たな課題を設定し、その実現に取り組み、年度末に点検・評価を行うことを通して、次年度の新たな課題を検討することになっている。東亜大学では「第3期中期計画」に基づき、PDCA サイクルによって改善・改革を進めていく体制が整備されており、その後はこのサイクルに沿って運営されてきている。令和5年度は、日本高等教育評価機構の受審年となり、令和4年度の活動報告及び令和5年の最新のデータは、日本高等教育評価機構の評価員の評価を経て、評価書とともに、全教職員・学生及び広く社会に公表するべく、ホームページで公開されている。今後も自己点検・評価活動による課題や展望を踏まえ、中期計画を達成することが期待される。

令和6年11月21日

東亜大学自己点検・評価外部委員会